

第6回 全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会 熊本大会が開催されました

法人本部 事務局長 飯塚 聡

【全国大会 記念式典】



1月24日は全体会として、式典、中央情勢報告、記念講演がありました。

中央情勢報告では田中統括より、次の4月に一般社団の法人格取得に向けて育成会の体制を変更しており、事務センター機能を従来の滋賀に加えて東京にも置いて稼働し始めたこと、又村あおい氏が新しく設置する一般社団法人の職員となることが発表されました。また、オリンピック・パラリンピックの開催に伴う文化芸術分野に関する取り組みとして「日本博」と称し、2月に開催するアメニティーフォーラムから全国各ブロックで開催するといった内容でした。

次の記念講演では、放送作家であり脚本家である小山薫堂氏から『幸せの企画術』をテーマに講演がありました。小山氏は熊本県天草市の出身で、放送作家・脚本家としてテレビ番組「料理の鉄人」や「世界遺産」など、映画「おくりびと」などに関わってきています。そして、熊本県PRマスコットキャラクターの「くまモン」の生みの親です。

小山氏の考える企画の原点は「どのようにして人を楽しませるか」であり、仕事として受けるときに自分に問いかけるポイントとして、「それは新しいか？」

「それは誰を幸せにするか？」「それは自分にとって楽しいか？」の3点を挙げられ、ひとつでも合致するものがあれば取り組むとありました。その例として誕生日を挙げられました。誕生日はその人にとって特別な日であり、周りから祝ってもらえる日です。そこで小山氏は企画の練習として、自社の従業員に対して誕生日サプライズを仕掛けています。それは毎回従業員の中から指名された「プロジェクトリーダー」が企画して社員全員で実行します。当然、ターゲットとなる

従業員には知らされません。まさに特別な誕生日にするために従業員全員で知恵を出しあうというものです。一見するとお遊びのようですが、ターゲットとなる人にサプライズとして提供するのですから、その人のことを本気で知ろうとする日常の観察力がポイントになります。また、ありきたりではサプライズにならないので、新しい発想が必要になります。そのため従業員が力を合わせて行わなくてはならず、副産物として従業員のまとまりも派生してくるということでした。そして、最も大事なことは自分も一緒になって楽しむことです。

次に新しい発想をする方法として、既にあるものを組み合わせた“化学反応”から広がるとありました。小山氏は山形にある東北芸術工科大学の企画構想学科を開設する際、開設準備に携わった経過があるとのことでした。この企画構想学科で学んだ一人が松田崇弥さんです。松田氏は大学を卒業して小山氏の企画会社に入社し経験を積み重ねた後、独立して「ヘラルボニー」という服飾ブランドを立ち上げました。松田氏は双子の兄弟で、その上に自閉症のお兄さんがいます。お兄さんの影響もあって知的障がいのある方が制作したアートをモチーフにした商品を展開しています。障がいのある人が作ったアートを活用したたいていの商品は安価なものが多いのですが、松田氏が手掛ける商品は一流メーカーとコラボレーションをした商品です。ブランド名の「ヘラルボニー」も、お兄さんが7歳の頃、自由帳に書き留めていた単語です。この意味を持たなさそうな単語に、企画を通じて世の中に価値を創り上げたいことからブランド名にしたそうです。

そして最後に熊本ということで、くまモンの誕生エピソードがありました。2011年3月に九州新幹線が全線開業するのに併せ、熊本県で観光キャンペーンを展開することになりました。それが「くまもとサプライズ」です。小山氏は熊本県出身ですが、地元で暮らしている人が見過ごしてきた身近にあるものの良さを発信することに重きを置きました。つまり、他の人が楽しむ(価値を感じる)前に、自分たちが楽しむ(価値を感じる)ということです。この地元の良さを熊本県民全体が観光大使となり外部に発信することで、全国から人を呼ぶことに繋がるとしたのです。そのような中で生まれたキャラクターが「くまモン」です。当初、くまモンは観光キャンペーンのキャラクターでしたが、ゆるキャラグランプリで1位となり一躍有名になったそうです。